

第1回碧南市地域福祉計画策定委員会 会議録

1 日時

平成27年6月2日（火）午後2時から午後4時まで

2 場所

碧南市役所2階 談話室2、3

3 出席者及び欠席者

- (1) 出席者10名 委員長（碧南市民生委員児童委員協議会） 杉浦紀政、委員（碧南市連絡委員 鈴木達夫、碧南市老人クラブ連合会 禰宜田知司、碧南市主任児童委員 岡本康子、碧南市身体障害者福祉協会 石川繁夫、碧南市手をつなぐ育成会 牧野昭彦、社会福祉法人樫の木乳幼児福祉会 對馬幸司、碧南市ボランティア連絡協議会 永坂幸子、助けあいの会さわやか碧南 倉内三代子、碧南市小中学校校長会 永坂昭彦）及びアドバイザー（日本福祉大学 野尻紀恵）
- (2) 欠席者4名 職務代理 杉浦三代枝、委員（碧南市健康推進員 玉田久美、碧南市おやじの会連絡会 榊原幸弘及び碧南保護区保護司会碧南支部 鳥居寛英）
- (3) 事務局職員 福祉こども部長 奥谷直人、福祉課長 三枝寿也、福祉課課長補佐 鈴木善三、福祉課社会福祉係担当係長 鈴木信恵、碧南市社会福祉協議会事務局長 杉浦達也、地域福祉課長 杉浦幹雄、地域福祉課主事 古川裕隆及び鰯部宣行
- (4) 作業部会員 地域協働課係長 河原睦、防災課課長補佐 松野盛高、こども課課長補佐 石井香代、高齢介護課係長 山田光則、在宅ケアセンター係長 葛原ひとみ、環境課課長補佐 伊藤正博、土木課担当係長 牧勝彦、都市計画課課長補佐 山田勇樹、建築課課長補佐 石川哲也、施設管理者課長補佐 安田浩二、公園緑地課課長補佐 柴田一雄、学校教育課課長補佐 神谷晃、生涯学習課係長 山田順子及び碧南市社会福祉協議会課長補佐 杉浦宏真

4 傍聴者

0人

5 議題等

(1) 講話

「地域福祉計画」について

(2) 議題

- ア 第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価の整理について
- イ 地域福祉に関するアンケート結果について
- ウ 第2期地域福祉計画の考え方について

6 議事の要旨

- (1) あいさつ（杉浦委員長）
- (2) 講話「地域福祉計画」について

日本福祉大学の野尻紀恵准教授による講話が行われた。

(3) 議題

- ア 第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価の整理について
事務局が会議資料に基づき、第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価の整理策定について説明した。

<主な意見・質疑>

【A委員】地域福祉計画と地域福祉活動計画を一つにしていこうという考えか。

【事務局】最終的な目標は、今2つある計画を一つにして推進する。

- イ 地域福祉に関するアンケート結果について

事務局が会議資料に基づき、地域福祉に関するアンケート結果について説明した。

<主な意見・質疑>

なし。

- ウ 第2期地域福祉計画の考え方について

事務局が会議資料に基づき、第2期地域福祉計画の考え方について説明した。その後、審議した結果、事務局案が承認された。

<主な意見・質疑>

【A委員】イメージできないので、もっと具体的に説明を。

【事務局】本日の会議としては、地域福祉についての講演から理解を深めることを重点としている。今後この基本的な考え方から具体的な課題等について議論したい。

【B委員】今、隣組が険悪になっており、昔は安否確認や相談事など、隣組を把握しておけば安心だった。今は全然なくなってしまったので、またもとに戻ればよい。

【事務局】碧南市全体があって、各学校の区があって、町内会、ご近所のように、本当に小さいところから福祉を発信することによって全体的に福祉に関する取り組みが行われるようにしたい。

【C委員】今後の会議の日程と内容は。

【事務局】第2回はより具体的な課題の抽出、第3回は、各地域での懇談会で出た課題の発表し、より具体的な計画策定、第4回は、12月に市議会への報告もあるため、素案の確認、第5回は、パブリックコメント後の意見を反映させ、最終的な計画を提出する。

(4) その他

次回以降の策定委員会開催日について

事務局が会議資料に基づき、次回以降の策定委員会開催日について説明した。

<主な意見>

【A委員】地域福祉計画の取り組みイメージで、ノーマライゼーション等のカタカナがあるが、子育てから高齢者までの福祉全体を考えたそういったコミュニティとかなり重要だと思う。大橋謙策先生の著書の中にも地域福祉の必要な方を含めたケアリングコミュニティがある。子育てから高齢者から、障害者から見ても「ケアリングコミュニティ」として計画のイメージがまとまると思う。

【事務局】

今回、第1期計画と社協の第3次計画の課題を整理して、今回特に力を入れたのが、地域の場面でそれをどう展開するのかというところを重点にした。今まで縦でやってきたものを地域でやるというような表現であり、今までの課題を少し継承した形のため、理念的に子育てコミュニティの理念からケアリングシステムということで、発想や視点の転換というか、もう少し枠組みを変えたらどうかというご意見のため、今後また委員と協議しながら全体像づくりを進めたい。